

はじまりとおわり

姫路城登城支援 と 一人のこどもの“死”より



National Park, yet the goldenrod (*Rudbeckia*) can be found in some parts of the woods and meadows, and the flowers of white-flowered bellflower (*Platycodon grandiflorus*) are abundant along the roadside.

A black and white photograph of a graduation cap (mortarboard) with a dark tassel. To its right is a large, rectangular red stamp with white text. The stamp contains the following text in Japanese:

関西福祉大学
社会
演習Ⅱ 7組

関西福祉大学 社会福祉学部

演習Ⅱ 7組（第3期ゼミ）

at other institutions will depend on the degree of marshalling

【報告の概要】

- ① 世界遺産・国宝である姫路城の大天守最上階への登城を希望する重度障害者の願いの実現に向けた取り組み
- ② 脳死状態にある子どもに寄り添い、一緒に時間を過ごす（手を添える・本を読む・話しかけるなど）活動に関する総括

【取り組みの軸・視点】

- ・ 持続性：活動を継続することで拡がりを持つものであること
- ・ 発展性：現在の法制度・人員体制では救済しえない分野を担うものであること
- ・ 社会性：顕在化した社会問題（理解を含む）の改善に資するものであること

つまには…

「イベントのような打ち上げ花火で終わらないことをやる」

「施設での実習でできることでなく、学生の時しかできないことをやる」

「社会に対し“いや、ソレっておかしいでしょ？”と根拠をもって言えることをやる」



【これまでの活動の概要】

① 姫路城登城支援

2017年 11月11日	第1期ゼミ学生が、最重度の身体障害（肢体不自由）のある方3名の大天守登城支援に成功 → 姫路城管理事務所の記録に残る限り初めての事
2018年 5月27日	第1期ゼミ学生が、名古屋 CBC テレビ報道局アナウンサー大石氏のデモ登城に協力 → 名古屋城建て替え論争（エレベータ設置の有無）に一石を投じる活動
2018年 11月15日	第2期ゼミ学生が、最重度の身体障害（肢体不自由）のある方3名の大天守登城支援に成功 → 支援学生に女性参加（女性でも支援可能であることを証明）
2019年 6月18日	第3期ゼミ学生が、重症心身障害の方（男女各1名）の大天守登城に成功 → 医療的ケアが必要な方の登城可能性を探るために、施設看護師等も同行し検証
2019年 7月31日	第1期ゼミ学生及びケンブリッジ大学生により中学生の重症心身障害児の登城支援に成功 → 世界遺産のあり方を海外にも理解者を拡げるための活動として実施
2019年 12月4日	第3期ゼミ学生が、中日新聞社の依頼に応じ、記者のデモ登城に協力 → 名古屋城建て替え論争に関して、エレベータ設置の必要性を提唱

② 手を添え、一緒の時を過ごす活動

2018年 6月～10月	第2期ゼミ学生が、障害児入所施設（医療型）において、脳死状態の子どもに寄り添い、一緒に時間を過ごす活動を開始（11～3月は感染予防のため施設訪問は不可）
2019年 5月～9月	第3期ゼミ学生が、前年度の活動を継承。週1回の訪問を9月まで継続して実施

報告1：世界遺産・国宝に挑む

2019年6月18日(火)

4回目の登城支援成功！



大天守に辿り着くまでにも急坂が続く

大天守最上階からの景色に満面の笑みがこぼれた

【今年度の特徴と私たちが学んだこと】

- 身体障害と知的障害の重複障害（いわゆる重症心身障害）のある方の登城支援に初めて成功
- これまでと同様、城内では観光客との相互交流、学生への激励等が多数あり、懸念された苦情やトラブルは一切なし
- 姫路城管理事務所側の対応も回数を重ねるたびに柔軟になり、相互理解が進展
- 私たちが学んだこと

「諦める」「仕方がない」って、大人の便利な言い訳やん！

報告2：手を添え、一緒の時を過ごす

【対象児のプロフィール】

- 3歳の幼児
- 日常的に父母から暴行を受け、1歳のとき腹を蹴るなどの暴行を受けたうえ、高い場所から床に突き落とされ、急性硬膜下血腫の重傷を負い緊急保護
- 脳機能に致命的かつ回復不能な障害があり、「自発呼吸なし」「意図的な反応なし（原始的反射は残る）」「視覚・聴覚機能消失」
→ 医学的には「脳死」状態と判定



現在の医学的・科学的側面から見ると…

手をつなぐことの効果（回復や反応）は全くない！

それでも私たちは手をつなぎに行った！（何か問題でも？）

【経過報告と私たちが感じたこと】

- ・ 昨年度の開始から今年9月まで、原始的な反射以外の動きはなし
- ・ しかしながら、施設からの報告では、今年9月までに、状態の急変が5回（うち2回は医師が人工呼吸器の停止指示を覚悟したほどの重篤な状態）あったものの、奇跡的に回復
→ 同様の状態にあったもう一人の子どもは昨年中に死亡しており、医学的には回復の原因は全く不明であるとの事
- ・ 私たちが感じたこと

今の医療・福祉には「この視点が完全に欠けている！」と強く感じた。（そんなモンに意味はあるんか？）

そして…

2019年9月7日（土）

Skyline Pigeon

lyrics by Elton John

Turn me loose from your hands
Let me fly to distant lands
Over green fields, trees and
mountains
Flowers and forest fountains
Home along the lanes of the skyway

For this dark and lonely room
Projects a shadow cast in gloom
And my eyes are mirrors
Of the world outside
Thinking of the way
That the wind can turn the tide
And these shadows turn from
purple into grey

For just a Skyline Pigeon
Dreaming of the open
Waiting for the day
He can spread his wings
And fly away again

スカイライン・ピジョン (エルトン・ジョン)

僕を自由にしておくれ
遠くへ翔んで行かせておくれ
緑の野や林や山々
花々や森の泉を越えて
空路の彼方の僕の故郷へ

暗くて寂しい鳥籠では
陰気な影を映す
僕の目は
外界を映す鏡
風は波を作り
影は紫から灰色になる
と考えている

都会の鳩は
大空を夢み
翼を羽き
もう一度翔んで戻れる
そんな日を待っている

Fly away skyline pigeon fly
Towards the dreams
You've left so very far behind

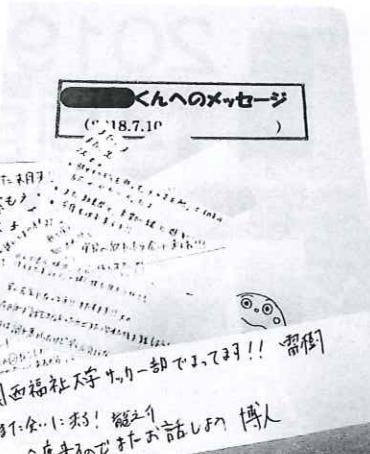
Just let me wake up in the morning
To the smell of new mown hay
To laugh and cry, to live and die
In the brightness of my day

I want to hear the pealing bells
Of distant churches sing
But most of all please free me
From this aching metal ring
And open out this cage towards
the sun

翔んでおいき
鳩よ 翔んでおいき 昔見た夢に
翔んでおいき

刈りたての馬草の匂いで
朝 自を覚ませるように
笑って泣いて自分の人生を活々と
生きて死にたい

遠くの教会で
鳴っている鐘の音を聞きたい
一番の望みは
この痛い金属の足輪を放して
この籠を太陽に向けて開けて欲しい



帰る時に一人ひとりがメッセージを残しています。
いつの日にか、意識が回復し、メッセージに目を通す日が来ることを願って

「ゴンナ！」 あれらはまだどっちに行かないし、行く気もない…
んでもって、時間がたてば忘れて想い出すこともなくなると思う。

そやけど…いつの日かまた会って、そこで互いに覚えてたら…
こんどこそ一緒にサッカーしよな！ 野球でもバーでもええで！
それまでにあっちでいっぱい練習しとけよな！